

研究成果情報

平成 28 年度

LA ユリ「アラジンズデジール」切り花の開花率及び日持ち性の向上		
[要約] 高温期に収穫された LA ユリ「アラジンズデジール」切り花に、市販品質保持剤の前処理と後処理を組み合わせると、ほとんどの蕾が鮮明な花色で大きく開花するようになり、切り花の日持ちが5日程度長くなる。		
新潟県農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科	連絡先	TEL 0254-27-5555 FAX 0254-27-2659

[背景・ねらい]

新潟県の LA ユリ切り花は 8～9 月の高温期が主力出荷時期であるが、流通時の咲き進みを防止するため若い蕾の状態では一部が開花しないため日持ちが短い。そこで、LA ユリに対する市販品質保持剤の開花率及び日持ち性の向上効果を明らかにする。

[内容]

- 1 切り花を収穫後、通常の水あげの際にチオ硫酸銀錯体 (STS) 剤及び葉の黄化防止剤を含む市販品質保持剤を、100 倍希釈 (STS 0.2mM 程度の濃度) で 3 時間吸液処理する (前処理)。
- 2 開花前の切り花を切り戻し、糖質及び抗菌剤を含む市販品質保持剤を、50 倍希釈 (グルコース 1% 程度の糖質濃度) で連続吸液処理しながら開花させる (後処理)。
- 3 上位の小さな蕾が咲きにくい「アラジンズデジール」では、前処理と後処理を組み合わせることにより、ほとんどすべての蕾が鮮明な花色で大きく開花し (図 1、2)、切り花の日持ちが長くなる (図 3)。また、後処理単独では葉の黄化が促進されるが、前処理を組み合わせることにより黄化が抑制される (図 4)。

[導入効果]

ユリ切り花収穫後の品質管理における品質保持剤活用効果の根拠を示すことにより、日持ち保証販売に向けた取組とその実現による産地信頼度の向上や消費拡大が期待できる。

[導入対象]

県内ユリ切り花生産者

[留意点]

- 1 市販品質保持剤による試験 (図 3、4) では、STS 剤と葉の黄化防止剤を含む前処理剤は P 社製、後処理剤は C 社製を用いた。
- 2 品質保持剤処理環境は 23～25℃・相対湿度 60%・12 時間日長とした。
- 3 前処理剤の吸収量が少ないと、花が観賞価値を失う前に葉が黄化するので、処理温度や処理時間等には注意する。また、後処理により、花卉に軽い色抜け症状が発生することがある。
- 4 導入の際は、流通・販売者等と連携した上で実施する。特に後処理の実施については消費者段階の処理となるため、販売時の情報提供の方法等を十分検討する。

[具体的データ]



図1 LA ユリ‘アラジズデジュール’に対する品質保持剤処理が開花に及ぼす効果 (開花 7 日目)

注) 収穫:平成27年9月11日、花蕾数:5輪、白抜き矢印:開花せず萎凋した花蕾、処理環境:25℃・60%RH
前処理:0.2mM STS・3時間、後処理:1%グルコース+0.5ml/L ケーソン CG+50mg/L 硫酸アルミニウム・連続

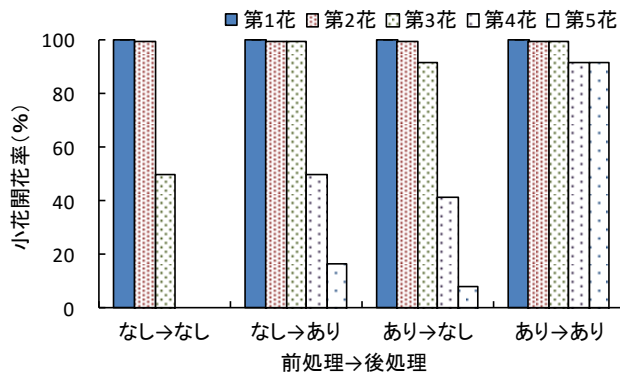


図2 品質保持剤処理が開花率に及ぼす影響

注) 材料及び処理は図1と同じ試験

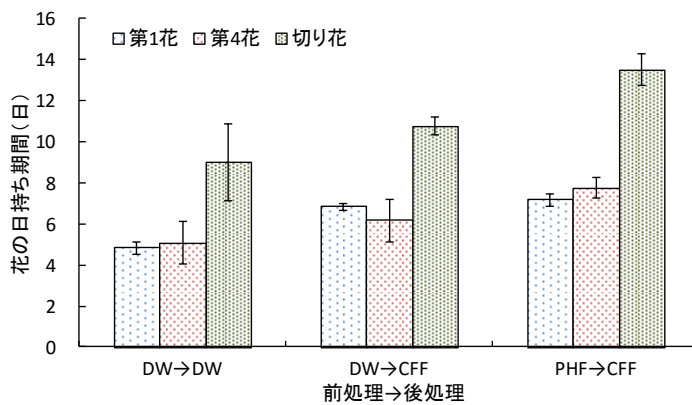


図3 市販品質保持剤処理が花の日持ち性に及ぼす影響

注) 収穫:平成27年10月20日、品種:LA‘アラジズデジュール’ (5輪)
前処理:3h、後処理:連続、23℃・60%RH・12hDL、誤差線:標準誤差
PHF:P社前処理剤、CFF:C社後処理剤、DW:蒸留水
切り花の日持ち期間:観賞性を有する小花が2輪未満になるまでの日数

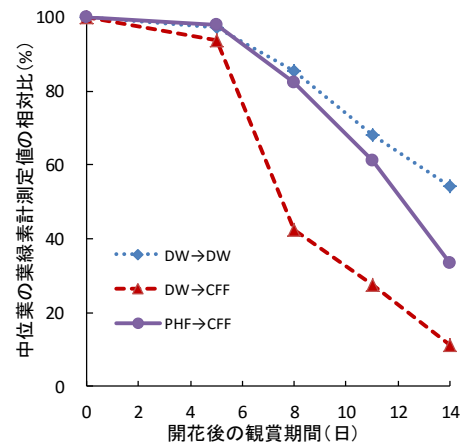


図4 市販品質保持剤処理が観賞期間中の葉色に及ぼす影響

注) 材料及び処理は図3と同じ試験

[その他]

研究課題名:花き日持ち性向上対策実証事業

予算区分:外部資金 (花き日持ち性向上対策実証事業)

研究期間:平成27年度 発表論文等:なし